

都留文科大学

同窓会報

第39号会報

発行 都留文科大学同窓会事務局

責任者 河端雄一

山梨県都留市田原3-8-1

☎0554-43-4341



名勝「田原の滝」

同窓會
都留文科大学

知恵と絆で 乗り越えましょう

都留文科大学同窓会会長

柏木 精一



同窓会員の皆様におかれましては、日頃より本会の活動に対しまして、ご支援とご協力を賜り衷心より感謝申し上げます。今年度は、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、公私ともに多くの影響があるかと拝察いたします。同窓会本部の活動も自粛せざるを得ないことが多く、毎年4月に開催しております全国の支部長様に参加いただく「理事会」や5月の教員採用試験に向けた対策である「模擬面接試験体験会」を中止いたしました。また、東日本大震災から10年を経過する被災地への大学合唱団の訪問も延期となりました。

本会報誌に寄稿された各支部の活動を拝見させていただきますと、感染の危険性に配慮し、多くの支部で総会や教採学習会が中止や書面でのやり取り、オンラインでの会議や面接の実施になるなど、支部役員の皆様のご心労を察するとともに、ご尽力に敬意を表する次第です。そのような中、今年度も多くの後輩が採用試験に合格する喜ばしい報に接し、都留での経験と絆を生かし教育界に新風を吹き込むことを期待しつつ、同窓の先輩諸氏には温かく見守ってほしいと願っております。

本学も感染拡大防止のための活動指針に沿って、遠隔授業が中心ですが、実技・実験・演習や学科が必要

と判断した授業については感染症対策を取る中で対面にて行われています。次第にキャンパスに活気が戻ってきているようですが、親元を離れた生活の中で、新型コロナのパンデミックに遭遇した学生は、感染対策の難しさや経済面の心配から様々な悩みを抱えていると思います。特に、新入生は思い描いていたキャンパスライフとは程遠い生活を強いられ、おそらく若い頭で様々なことを考えたと思います。しかし、私はそのような苦しい状況の中でも学生諸君は、「自分なりに考える力」や「人との繋がり大切さ」を改めて感じ得たと確信しています。

私事ですが、昨年度末に学校を退職し、今年度は児童館と放課後児童クラブに携わる仕事に就いております。本来子どもは群れて仲間とともに成長すると思いますが、不自由な生活を強いられる中、先生方の指示をしっかりと守り、健気に感染予防に努めている姿は、時に大人も見習うべきと感じます。また、指導員の先生方も自らの感染症リスクと向き合いながら、子ども達の安全を守り、成長を保障するために奮闘されています。学校現場でも、多くの行事が中止や縮小されておりますが、今しかできないこと、今だからできることを工夫し実行しており、これまでの教育活動を見直す契機にもなっているようです。コロナ対策を通して得た経験と知恵をアフターコロナに生かしてほしいと願っております。

結びに、新型コロナウイルス感染症が1日でも早く収束し、再びこれまでの日常に戻ることを願うとともに、会員の皆様のご自愛され、ご家族とともに平穏な日々を過ごされることを願い挨拶と致します。

都留文科大学同窓会役員

役職名	氏名	卒科	役職名	氏名	卒科	役職名	氏名	卒科	役職名	氏名	卒科
名誉会長	藤田英典	学長	理事(支部長)	茨城県支部長	長岡省一 S55英	理事	和歌山支部長	谷口博保 S51初	理事	平井昌秀 S60初	
会長	柏木精一	S57初		栃木県支部長	平野見一 S54英		鳥取県支部長	岡田栄子 S50初		内藤郁夫 S48国	
副会長	桐井幸雄	S32初		群馬県支部長	齋木雄造 S52国		島根県支部長	小藤 貢 S44初		若林四郎 S31商	
	杉中康平	S59初		埼玉県支部長	西 敬 S56初		岡山県支部長	関野茂夫 S58初		千野文雄 S48英	
	河端雄一	S63初		千葉県支部長	川名和則 S51英		広島県支部長	小谷桂司 S44初		仲田俊朗 S50初	
	笹本忠彦	S62英		東京都支部長	松本多加志 S44初		徳島県支部長	小倉健司 S53英		原田孝雄 S63初	
庶務会計	小幡哲明	S56国		神奈川県支部長	山田節朗 S45初		愛媛県支部長	谷川忠孝 S42初		高橋雄二 S60初	
	原田裕太	H7初		新潟県支部長	池原栄一 S50初		高知県支部長	前田志郎 S48初	顧問	奥秋順作 S31初	
	平井鉄二	大学課長補佐		富山県支部長	城岸 毅 S54初		長崎県支部長	平山繁壽 S44初		後藤 敬 S33商	
事務局長	渡辺正司	S63初		石川県支部長	谷内誠一 S50英		熊本県支部長	永田好文 S47初		佐藤唯一 S32初	
事務局次長	浜欠亮吉	S39国		福井県支部長	福田 修 S57初		宮崎県支部長	取附義弘 S51初		佐藤英雄 S38国	
	外川正純	S46英		山梨県支部長	石井正己 S51初		鹿児島県支部長	本田武久 S43国		奥石 東 S32初	
	奥脇美穂	H1初		長野県支部長	下島一道 S61初		沖縄県支部長	比嘉正夫 S53英		山縣永良 S39国	
	小口尚良	S60初		岐阜県支部長	清水久司 S53国	理事	北海道	加藤佳栄 S55英		勝俣武男 S41初	
監事	淡野香百合	S39初		静岡県支部長	臼井 泰 S46国		秋田県	鎌田 清 S47初		永田清一 S46国	
	相川洋子	S52英		愛知県支部長	百瀬 隆 S59初		兵庫県	赤穂榮一 S40英		千野文雄 S48英	
理事(支部長)	北海道支部長	北田則章 S56英		三重県支部長	田畑繁行 S53初			一瀬英治 S46国		亀田孝夫 S51英	
	青森県支部長	遠藤ゆみ子 S63初		滋賀県支部長	松嶋孝雄 S46初			牛山正司 S51初		原 喜雄 S53初	
	岩手県支部長	高橋節夫 S56英		京都府支部長	枅谷雄三 S44初			笠井正宏 H22院臨床教育		加藤一雄 S53初	
	宮城県支部長	坂本忠厚 S59初		大阪府支部長	藤田明彦 S57初			北川圭吾 H13初			
	山形県支部長	白林和夫 S60初		兵庫県支部長	高谷和久 S43初			諏訪桂一 S57国			
	福島県支部長	大竹豊紀 S39初		奈良県支部長	岡田善英 S45初			古屋宗久 S55初			

令和3年2月1日現在

2020年度を振り返って

都留文科大学学長

藤田 英典



学長に就任して10か月、あっという間に過ぎました。昨年3月から新型コロナウイルス感染症の第1波が到来し、入学式は中止となり、4月7日には緊急事態宣言が発令され、4月20日から学生の学内立ち入り原則禁止、授業はすべて遠隔方式での実施となりました。緊急事態宣言は5月25日に解除されたものの、7月上旬から第2波が始まり、9月には収束するかに見えたが、10月下旬から第3波が猛威を振るい始め、医療体制の逼迫も深刻化するなか本年1月8日から再度、1都3県を対象に緊急事態宣言が発令され、14日から7府県が追加されました。

こうした状況下で、本学では毎週コロナ対策本部会議を開催し（本年1月19日時点で通算37回）、毎回、①学生部門（保健センターと学生担当、国際交流センター担当）、②教務部門（教務担当・教職担当と教務委員会）、③情報部門の報告・提案を受け、また随時、入試や交換留学などの報告・提案も受け、概略、以下のような対応を行ってきました。

①では感染予防策の策定と学生・教職員への周知、施設の利用制限や課外活動の許可制、学生サポート、国の「学生支援緊急給付金」と都留市及び本学独自の支援金やフードバンク等の食料品の支給などを実施してきました。また、12月～本年1月19日の間に学生7

名（帰省中・アルバイト先・部活動）と非常勤講師1名が感染し、数名の濃厚接触者も出たことへの対応（保健所と連携してのPCR検査やタクシーでの送迎体制の整備など）も行ってきました。

②では主に授業の実施形態（遠隔か対面か等）の検討・決定を行い、加えて、学生課とも連携して「新型コロナウイルス感染症拡大防止のための活動指針」（授業・施設利用・課外活動・窓口業務・学内会議・施設貸出などに関する基準）案を取りまとめ、対策本部会議全体で策定・改訂してきました。

③では主にZOOMによる遠隔教育実施体制の整備に始まり、その円滑な利活用に向けての教員と学生へのサポート、さらには、遠隔教育やオンライン会議の実施状況に関するアンケート調査の実施とその結果の授業や学生サポートの改善に向けてのフィードバックを行ってきました。

他方、国際交流・交換留学についてはほぼ全面的に中止・延期になりましたが、入試の円滑な実施と優れた学生の確保については1月現在、志願者数は例年より若干少ないものの、例年とほぼ同様に優れた学生を確保することができているようです。

以上のように、コロナ対策に明け暮れた一年でしたが、全学の教職員と学生の協力を得て、世界的なパンデミックの渦中にありながらも、大過なく過ごしていただけています。むろん、対面での活動が大きく制限されるなか、対面でこそ可能な豊かな学びの実現や交友関係の展開も限定的になっていることは否めませんし、その度合いは特に新生にとって厳しいと推察されます。コロナ感染が終息に向かい、2021年度は豊かな学びとキャンパスライフが復活することを願ってやみません。

令和2年度 都留文科大学同窓会都道府県別会員数

No	県 名	会 員 数	No	県 名	会 員 数	No	県 名	会 員 数	No	県 名	会 員 数
1	北海道	614	13	東京都	1,310	25	滋賀県	102	37	香川県	156
2	青森県	257	14	神奈川県	1,239	26	京都府	244	38	愛媛県	338
3	岩手県	637	15	新潟県	655	27	大阪府	456	39	高知県	86
4	宮城県	583	16	富山県	694	28	兵庫県	840	40	福岡県	218
5	秋田県	264	17	石川県	629	29	奈良県	89	41	佐賀県	79
6	山形県	382	18	福井県	545	30	和歌山県	192	42	長崎県	220
7	福島県	753	19	山梨県	3,985	31	鳥取県	166	43	熊本県	192
8	茨城県	486	20	長野県	1,256	32	島根県	227	44	大分県	115
9	栃木県	504	21	岐阜県	568	33	岡山県	407	45	宮崎県	153
10	群馬県	404	22	静岡県	1,673	34	広島県	485	46	鹿児島県	350
11	埼玉県	568	23	愛知県	1,218	35	山口県	160	47	沖縄県	239
12	千葉県	597	24	三重県	400	36	徳島県	439	48	外国・不明等	9,706
										合 計	35,880

県支部設立済都道府県

令和2年9月1日現在

退職にあたって —都留文科大学の良き伝統—

都留文科大学退官教授
学校教育学科

鶴田 清司



本学に赴任したのは1985年4月。あれから36年が過ぎた。当時私はまだ29歳。大学院の博士課程を出て、いきなり初等教育学科の専任教員（国語教室所属）として採用された。研究業績が少なく、非常勤講師の経験もなかったが、「将来の可能性がある」という理由で選ばれたようである。

先輩教員で、芥川龍之介の研究で知られる関口安義先生は、研究室が隣ということもあって、私によく声をかけてくださった。「昨日は何枚書きましたか？」が毎日の挨拶である。関口先生は大変に研究熱心な先生で、寸暇を惜しんで論文の執筆に没頭されていた。本学は、教員の研究時間を十分に確保してくれる勤務条件（授業は基本的に週5コマ）となっている。関口先生の激励（圧力？）と恵まれた勤務条件のもとで、自分の研究を深めることができた。この36年間に出版した単著は17冊、論文は400編を超える。

また、本学の研究支援体制の1つである学外研究の制度を利用して、博士論文も提出することができた。『〈解釈〉と〈分析〉の統合をめざす文学教育—新しい解釈学理論を手がかりに一』（2010年、学文社）は私のライフワークとなった。

こうした業績が評価されたのか、日本最大の国語教育学会である全国大学国語教育学会の理事長も務めることができた。この職は従来、筑波大学、広島大学のいずれかの大学から理事長が選出されてきた。教員・院生が多く、学会事務局体制が作りやすいことがその大きな理由である。そんな中で都留文科大学から理事長が選出されたことは異例中の異例であった（私の就任に合わせて学会事務局も業者委託となった）。

学生のことについても触れておきたい。本学の魅力は、昔から学生の質が高いということである。それも偏差値には表れないような人間的な資質・能力である。接していて楽しく気持ちがいい。これは何にも代えがたい良き伝統である。私が36年間に指導したゼミ生の数は300人を超える。卒業生が教育界はもとより、多方面で活躍してくれることは大きな喜びである。

最後に、36年間お世話になった都留文科大学に深く感謝するとともに今後のさらなる発展を祈念したいと思う。

過ぎし30余年

都留文科大学退官教授
英文学科

福島 佐江子



私は1987年4月に都留文科大学に赴任致しました。その頃退職される先生のご挨拶の中で30数年勤められたというお言葉を聞き、当時の自分の年齢を超えておりそれほど長く勤められるものかと内心思っておりました。光陰矢の如し、私も34年間都留文科大学で教鞭を取らせて頂き、定年を迎えることになりました。

赴任してからしばらくは、専任女性教員は1割かそれ未満だったでしょうか。教授会をはじめとする会議では男性教員の姿ばかりが目に入り、緊張し俯いておりました。今では女性教員も委員長や学科長を務めるのは当たり前ですが、当時はそのようなこともありませんでした。月日が流れ、私も英文学科主任（当時は学科長ではなく、学科主任の名称）を務めることになり、学科をまとめていく苦勞を

体験致しました。その後、50代半ばでクモ膜下出血を患いましたが、幸運にも復帰することができ、定年まで働き続けられたことに感謝しております。教職員の皆様、学生達をはじめとする多くの方々に支えられたお蔭です。この場をお借りして改めて御礼を申し上げます。この体験から人は1人では生きられないことを痛感し、命の大切さ、有り難さを身に沁みて感じております。

今ではパソコンやインターネットなしには仕事も出来ませんが、赴任してからしばらくは会議通知等も封書で来るような時代でした。便利なことも多くなりましたが、果たして本当の意味で文明の進歩と言えるのかということも時折考えます。今年度は新型コロナウイルスの発生によりオンラインで講義することを経験致しましたが、ハッキング、個人情報の漏洩等々の問題もあります。またデジタル眼精疲労という言葉も耳に致します。最近の学生達を見ると自ら考える前にインターネットの情報を鵜呑みにする傾向があるようにも感じます。これまで教育・研究に携わってきた者として教育の意義や研究のあり方を考えつつ退職の言葉とさせていただきます。大変お世話になり、ありがとうございました。都留文科大学の益々のご発展をお祈り申し上げます。

大学での思い出

都留文科大学退官教授
比較文化学科

大辻 千恵子



都留に着任したのは1991年10月です。29.5年の在職でした。その前は西南学院大学国際文化学科に5.5年おりました。福岡市の真っ只中にある西南と違い、都留は自然に恵まれたのんびりとした立地で、また全国から集まってくる学生も真面目という、とても居心地のよい環境でした。中央線高尾駅から山々の四季折々の景色を眺められたのも、至福の時間でした。

当初英文学科に着任しましたが、1993年に新設された比較文化学科に移りました。スタートした時、学問体系として確立されていなかった「比較文化」という学科でどのようにカリキュラムを展開・充実させていくのか、合宿して学科の先生方と熱く語りあったことが懐かしく思い出されます。学際的かつ地域横断的なこの学科で、文化というのが政治、経済、社会とあらゆる諸相と関係しあっている

ことを見出し／確認・再確認する、その積み重ねの歳月でした。

着任早々に8週間の産後休暇をとることになりましたが、当時学長の白尾恒吉先生や教務厚生部長の松本四郎先生が暖かく対応してくださったことは今でもよく覚えています。私が着任した前後から徐々に女性教員も増えはじめ、ジェンダー研究者も一定数いるようになり2005年にジェンダー研究プログラムを立ち上げることができました。いい意味で固定観念に捉われていない都留の学生が多く受講していることは嬉しい限りです。最後の十数年間にはジェンダーのテーマで卒論を書く男子学生も増えていたことが印象的でした。また女性教員で昼食会を開き交流する機会もできましたが、昨今はとてもみなさんが忙しくなり、会も開かれていないのが残念です。

最終年は、新型コロナで思いもかけずオンライン授業となり、複雑な思いの1年となりました。都留の学生の真面目さを再確認するとともに、通常通りの対面授業だったから、どんな思いでまたどんな形で行っていたらうかとも考えます。都留での最後の年が歴史的なパンデミックの年だったことを決して忘れないでしょう。

最後に、図書館や事務局のみなさんには大変お世話になりました。ありがとうございました。

活躍する同窓生

我教職人生の原点は 都留文科大学にあり

熊本県上天草市教育長

高倉 利孝

(昭和45年度 英文学科卒)



1 自分を育んだ学生時代

(1) 高尾町三の丸「土屋荘」からのスタート

私の下宿は元料亭で障子や襖で仕切られた大小の部屋に男子学生11人がくらしてた。1年生は私1人で、後は3年生4人、4年生6人という構成であった為、先輩達からかわいがられ、教えてもらうことも多く、得をしたと言っている。単位の取得方法も教えてもらい、中高の英語の免許の他に、小学校の免許まで取得し、就職に役立った。また、マージャンも覚え、皆で卓を囲むのが大きな楽しみだった。

(2) スケートに明け暮れた4年間

下宿にスケート部の先輩がいて、スケート部に入部することになり、オールシーズン鍛えられた。シーズン中は、毎朝4時に起き、スケート靴のエッジを磨き、5時の電車で、富士急ハイランドスケートセンターに通った。氷点下の練習は出た汗が凍るという厳しいものであったが、頑丈な体と強固な精神力を作り上げてくれた。おかげ様で、生まれて初めて氷に乗った自分が青森国体に出場できた。

(3) 人との交流

下宿の親父さんをはじめ、アルバイト先の家族、地元の若い仲間との交流は、学生生活を心豊かにしてくれた。自分は学生という甘えられる面もあったが一社会人として付き合える度量を持てたことは、私自身の強みとなった。

また、大学の先生方にも随分お世話になった。学問に勤しまなかった私にも、惜しみなく単位をくださった。中でも、体育科の一木昭男先生は、スケート部の顧問でもあり、個人的にも良くしていただいた。お世話くださったキャンプ場でのアルバイトは、私が野外活動に興味を持つ切っ掛けとなった。

2 38年の教職人生

(1) 教諭時代

「子供達の為なら、できることを精一杯頑張ろう」という志で教職についた。マラソンクラブを作って早朝練習をしたり、夏休みには教育キャンプを楽しんだり、子供達を鍛えて、色々なスポーツ大会に参加したりと日常活動以外

でも精力的に活動した。

陸上競技大会では6本ある優勝旗を5本持ち帰るという快挙を成し遂げた。また、90人の大長縄跳びでは世界記録を達成し、「これがギネスブックだ」というテレビ番組にも出演した。「やればできる」という言葉を子供達と共に噛み締めた。

(2) 管理職となって

教頭職6年、校長職11年と責任ある要職を務めた。子供の安全確保ということで登校班の児童と共に1日も休まず登校した。また、休日を利用して、登山や船・汽車の旅を計画し実行した。天草の僻地の小さな学校の子供達に何をしてやれるのかと改めて考えた時、どこの学校にも劣らない貴重な体験をさせてやろうと考えた。子供達、職員、地域の方々と朝市を起こし、その収益金を貯め、1年目は九州新幹線開通日に鹿児島旅行、2年目は東京ディズニーランドへ、3年目は福岡博多座の「屋根の上のヴァイオリン弾き」というミュージカル鑑賞に出かけた。

学校では見せることのない子供達の姿や行動がそこにはあった。とても印象に残った。

3 第2の人生

(1) 青少年教育に従事

退職と同時に熊本県立天草青年の家所長に就任した。施設を利用する者は、海や山の活動が主で、いつもケガや事故とは隣合わせのため、事故防止に万全を尽くした。事前の実施踏査や確かな情報に裏打ちされた判断で大きな事故なく5年を務め上げた。

(2) 現教育長

7月に教育長2期目を拝命し、教育行政の長として、子供からお年寄りの方々までの教育に携わっている。また、各学校の課題も様々で、その課題に対し、教育委員会として、どの様に関わってやれるのか、どう助言・指導すべきかが重要な任務である。

私のモットーは現場主義である。現場に足を運び、自分の目で確認し、対応に当たる。そして心の込もった行動で解決へ導く。今までに、このやり方で解決した事案は多い。無病息災の私である。

活躍する同窓生

多文化共生の 社会をめざして ～日本語教室を作る～

遊 亀 美 枝

(昭和57年 英文学科卒)



○生涯の友を得た学生時代

大学時代で自慢できることは、卓球部が昭和54年、私たちの代で関東リーグの4部から3部に昇格し、さらには、次の代が3部から2部に上がるという快挙を成し遂げたことです。今でも、この2代で3年に1度集まり、全国持ち回りで同窓会を開いています。部活とバイトに明け暮れた毎日でしたが、部活以外でも親友ができ、生涯の友を得られた貴重な学生時代でした。

○小学校教員としての33年間

進取の気性を持つ私は、新しいことに挑戦するのが好きな上に、失敗を気にせず即行動に移すところがあり、試行錯誤でとにかく前進という教員生活でした。学ぶこと自体が好きで、いつもサークル活動やら公開講座やら何かを学んでいました。33年間ずっと国語教育を専門としていましたが、西郷竹彦先生の文芸教育にはまった15年間、その後、児童文学、小学校英語教育、多文化共生と私の興味は移っていきました。公開講座「多文化共生のまちづくり」で日本語教育について学んだことが、早期退職につながるようになりました。

○地域日本語コーディネーターとしての3年間

日本語教師になることを決めて2年早く退職したその年(平成28年)に、文化庁の「地域日本語教育スタートアップ事業」が始まりました。3月に退職して、4月から通信教育で日本語教育能力検定試験の勉強を始めたばかりでしたが、これも何かの縁かと腹をくくり、コーディネーターを引き受けました。

この事業の目的は、空白地域の市町村に日本語教室を作ることです。文化庁事業としても初年度で、参考事例なしのスタートでした。在住外国人の実態調査から始まり、日本語ボランティアの募集、養成講座の開催などしなければならぬことは山積で、アドバイザーの先生方のサポートを得ながら、町の中を動き回りました。町内の4つの小学校で勤めた教員時代の人脈が非常に役に立ちました。初めての活動でも、好意的に支援してもらえたのが本当にありがたかったです。

2年目には、日本語ボランティアの会「美波多文化共生ネットワーク『ハーモニー』」という団体を立ち上げ、試行的に日本語教室を開始しました。日本語教室の運営をし

ながら、町の多文化共生をめざすイベントも始めました。町の祭りに合わせて、4月花見&古民家ツアー、7月うみがめ祭り浴衣着付けイベント、10月秋祭り&ちょうさの町歩き、11月人権フェスなど。年に1回は、外国人を対象にした防災ワークショップも実施し、津波が来たときのために一緒に学んでいます。今では、どのイベントもハーモニーの恒例行事になりました。この3年間の取組は「美波町に生まれた6つのストーリー」と検索してもらえば、報告冊子を見ることができます。

○令和になって

事業終了後、1年目の令和元年、「ハーモニーこどもクラブ」を立ち上げました。次世代の子ども達こそ多文化共生の社会の担い手となると考えたからです。在住外国人にスタッフとして協働してもらおうというねらいもあります。スポーツや工作など親子で参加できるイベントをしています。

今年度はコロナ禍で、ハーモニーの活動も厳しい状況に追い込まれました。2月～5月まで中止になった日本語教室も今(11月)は、週1回、おしゃべり国際カフェは月1回、何とか継続しています。

コロナ禍でもできたこともあります。ハーモニーのウェブサイトHPを開設しました。10月、同郡内の海陽町に新しい日本語教室を開設することもできました。協力体制を組みながら頑張っています。

Think globally, Act locally がハーモニーの合い言葉です。多文化共生の社会をめざして、新しいことに果敢に挑戦していきたいと思っています。



浴衣着付けイベント



日本語教室

新型コロナウイルスに翻弄された1年

北海道支部長 北田 則章

いまだに日本中で感染者の確認が相次ぎ、収束の兆しが見えない COVID-19により、各都府県支部におかれましても同窓会活動が制約を余儀なくされていることと拝察します。

北海道では、5月に予定していた役員会が会場側の臨時閉館により開催不能となり、各役員へ役員会中止の通知に併せて支部設立49周年となる総会・懇親会・講演会の実施について郵便アンケートを行いました。その結果、中止すべきの回答が多数を占めたことから、帯広市内で8月に開催する予定であった総会等を中止するという苦渋の決断を下しました。準備を進めてくださった道東方面の会員の皆様には、申し訳なく思っています。

7月になって開催できた役員会において、会計決算・監査報告は行うべきであるとの意見が出たことから、8月に全会員へ議案書を郵送する書面総会の形式で経過報告、決算・監査報告ならびに役員補充を実施しました。以上が今年度の全活動です。

来年の支部総会は、設立50周年を迎える記念すべき総会となります。延期になった東京五輪のマラソン・競歩と重ならないよう、令和3年7月31日(土)に札幌市の「ホテルライフオート札幌」を仮押さえています。この節目に合わせて『50周年記念データ集ディスク』を配布すべく、編集委員会を立ち上げて準備を進めています。

安全・安心の日常が取り戻せて、来年の50周年記念総会には「桂友会」会員が全員参加できるようにすることを願っています。

〈令和2年度～令和3年度役員〉

支部長	北田 則章	(昭和56年度 英文)
副支部長	山本 洋嗣	(昭和55年度 国文)
	中村厚喜夫	(昭和52年度 初等教育)
	長坂 隼	(昭和36年度 初等教育)
事務局長	板東 真一	(昭和55年度 英文)
事務局次長	大花 学	(昭和60年度 国文)
	照山 秀一	(平成元年度 英文)
	桜田 琢	(平成8年度 社会)
会計	神野 昌代	(平成4年度 国文)
会計監査	西山 肇	(昭和40年度 初等教育)
	井口 郁将	(昭和50年度 国文)
事務局員	金子 歩	(平成15年度 国文)
	吉田 俊介	(平成24年度 英文)
	赤間 圭城	(平成25年度 国文)
顧問	日下 功	(昭和32年度 初等教育)
	熊谷 勲	(昭和38年度 国文)
	当銀 誠博	(昭和39年度 初等教育)
	横山 勲	(昭和40年度 国文)
本部理事	加藤 佳栄	(昭和55年度 英文)
	北田 則章	(昭和56年度 英文)

同窓会旗の下へ集合できる日を夢見て

青森県支部長 遠藤 ゆみ子

青森県支部では、第3回都留文科大学同窓会青森県支部定期総会・懇親会を、令和2年9月19日(土)に開催する予定でしたが、未だ猛威を振るう新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、役員会で話し合った結果、中止にすることにしました。

定期総会での審議事項(決議)については、このような状況下であることを考慮して、書面決議としました。また、役員任期満了による役員改選についても、総会で決議しなければならなかったため、今年度は、現役員の任期を1年延長し、次年度総会において、残期1年間の議案審議を執り行わせていただくことにもしました。

平成30年に支部を発足したばかりですが、少しずつ会員数が

増え、今年も今まで以上に多くの方々に集まっていたいただければと意気込んでいたのですが、中止にすることは苦渋の決断でした。

しかし、こんな中、会員の皆様方から「残念ですが再び会える日を楽しみにしています。」とか、「コロナが収束したら、ゆっくり会いましょう。」などと、温かい言葉が寄せられ、来年の開催へ向けての勇気をいただきました。また、東北ブロック理事の鎌田清先生からも励ましの声をかけていただき、次回への活力につながり、心より感謝しております。

新型コロナウイルスの収束にはまだまだ時間がかかると思いますが、コロナに負けずに頑張り、再びこの同窓会旗の下に、元気な姿で会員の皆様にお会いできる日を、今から楽しみにしています。

〈青森県支部役員〉

顧問	鈴木 俊雄
	笹垣 昇
支部長	遠藤ゆみ子
副支部長	中村 正寿
	畠山 直榮
監事	阿部 千絵
	梅村千鶴子
事務局	川村久美子
幹事	福田 陽奈
	鈴木 昭子



宮城県支部の本年度の活動

宮城県支部長 坂本 忠厚 (石巻市立湊小学校校長)

宮城県支部の本年度の活動は、2月1日、仙台市ホテル白萩での支部総会よりスタート。51名の出席で、柏木精一同窓会会長、清水雅彦教授初め、隣県支部からの参加者もあり、盛会に行われた。大学の現況報告や、会員の活動の様子、大学時代に限り、旧交を温める場となる和やかな雰囲気で行われた。会の中、研修として、秋山治美先生の道徳教育の実践発表を行い、最後は、鎌田光彦先生のアコースティック伴奏で、恒例の、都留大節、武田節、花のかげを肩を組みながら声高らかに歌い、谷村の夜を懐かしんだ。

今年度計画の、合唱団被災地支援コンサートや教員採用試験対策学習会などの報告もあったものの、コロナ禍の影響で多くの事業を見直さざるを得なくなった。

コンサートは来年度以降に延期とし、教採対策学習会は、リモート会議での情報交換や、オンラインでの面接練習、電話相談を行った。宮城県支部会報も例年通り発行。できない理由を探すのではなく、出来ることを探してきた姿勢こそ、我々が都留の4年間で学んだことの成果と考えている。

その成果もあり、昨年度は、都留大より、宮城県・仙台市に小学校5名、中学校1名が採用され、4月より教壇に立っている。



また、今年度も、過卒を含め、小学校に7名の採用が内定。来春、都留の新風が宮城の地に吹くことになる。

今年は、新企画として、10月に、初任者教員研修会を、教育居酒屋「きままや」にて実施した。教員退職者、現役管理職を講師に、自らの失敗談・些細な悩みを中心に、普段口に出しにくいことも、膝を交えて気さくに語り合える貴重な機会となった。

過去を懐かしむだけでなく、世代を超えて、今を語り、共に未来を築いていく宮城県支部会でありたい。この状況下で我々のできることを、都留の恩返し・宮城版とは何かを会員の英知を結集させて創りあげていきたいと考えている。

山形県支部「べにばな会」について

山形県支部長 白林 和夫

コロナ禍の中、都留文科大学関係各位はもとより全国各地の同窓生の皆様方には、それぞれのお立場で大変困難な中、様々な活動に尽力されていることと存じます。

山形県支部「べにばな会」は、設立以来、2年に1回、総会及び懇親会を開催してまいりました。令和2年は、その開催年度となっておりましたが、役員による電話等での協議の結果、新型コロナウイルス感染防止の観点から中止せざるを得ないと判断いたしました。また、併せて、以下の点についても確認を行ったところです。

◇次期総会は、来年度（令和3年度）の11月をめどに開催する。

◇役員については、現在の役員の任期（2年）を、次期総会までの1年間延長する。

いずれも、本来総会で決すべき内容ではありますが、「べにばな会」の皆様方には、今般の状況を鑑み御了承をいただきましよう、この場をお借りしましてお願い申し上げます。

現在のところ、今後の見通しも不透明な中ではありますが、こうした状況が好転し、来年は、総会・懇親会を開催し、また、都留の思い出話を花を咲かせられることを願うばかりです。

【令和2年度「べにばな会」役員】

〈顧問〉 武田 茂之（初教・昭54）
 〈会長〉 白林 和夫（初教・昭60）
 〈副会長〉 原田 清一（初教・昭60）
 渡邊 隆（初教・平4）
 〈会計監事〉 佐藤 英樹（初教・昭60）
 〈理事・村山〉 小川 秀人（国文・昭55）
 鈴木 雄二（国文・昭55）
 〈理事・最上〉 武田 茂之（初教・昭54）
 佐藤 敏幸（初教・平8）
 〈理事・置賜〉 神尾 正俊（国文・昭55）
 菅野 洋子（初教・平13）
 〈理事・庄内〉 奥山 広幸（初教・昭57）
 中條 秀基（初教・平20）

栃木県支部設立2年目、前途多難な航海にエールを！

栃木県支部長 平野 見一

栃木県、そして全国の同窓生のみなさん、こんにちは。

令和元年8月31日に支部が設立されてから2年目を迎えました。全国41番目の支部として、現在76名の会員で航行（栃木県は海なし県ですが…）しています。

関係各位の御理解と御支援を賜り「令和」のスタートとともに順風満帆の船出をして「さあこれから、まずはどの寄港地に…」と役員一同やる気満々という時に、コロナ禍という誰もが予想できなかった嵐の海に遭遇してしまいました。

「大学の発展への寄与」と「会員相互の親睦」という同窓会の目的地の港に向けて、僚船の御理解と御支援を受けながらの航海ですが、意気揚々と支部設立をして船出したものの難破船となり「後悔」することのないように、今後も支部会員をはじめとした全国の同窓生の皆様のお力添え、エールをいただければ幸いです。よろしくお願いいたします。



2年目の事業では、コロナ禍のために定期総会は規約に基づき役員会による代替とさせていただきますが、役員会は令和2年9月

に書面決議で行いました。参集しての役員会はコロナ禍の状況にもよりますが、令和3年3月までに行う予定です。「待てば海路の日和あり」となることを願って…。

最後になりましたが、都留文科大学と都留文科大学同窓会のますますの御発展と全国の同窓生の更なる御活躍をお祈りいたします。

※写真は令和元年の支部設立総会後の懇親会での集合写真と栃木県の代表的観光地である日光の男体山と中禅寺湖の写真です。コロナ禍が終息して早くみなさんと再会できることを願っています。栃木県にお出での際には御一報ください。

◆役員◆ ※理事は省略させていただきました。

支部長 平野 見一
 副支部長 柿沼 裕子 磯 佳子
 監事 菱沼 孝 齋藤 初代
 事務局長 赤羽喜代美

※栃木県支部に新たに加入したい方、興味・関心がある方は、平野まで御連絡ください。

平野 見一【携帯】090-4662-1944

【メール】hira3ken3@hb.tp1.jp

コロナ禍であってもできる取り組みを

群馬県支部長 齋木 雄造

令和2年8月22日（土）に開催する本県支部総会・懇親会に向けて高崎市内のホテルへの予約をはじめ早い段階から準備を進めていたところへのコロナ禍。ウイルス感染のリスクを回避する上から総会・懇親会はやむを得ず中止しました。本県支部の総会・懇親会は、2年に1度、本県関係の会員が一堂に会してそれぞれの胸の内に生きている都留を熱い思いで語り合い、参加者相互の情報交換や情報共有、新たなネットワークづくりが行える機会として貴重な場となっていました。また、本県支部の活動内容について参加者全員で理解し共有するという点においても欠かせない場となっていました。このような本県支部活動の中核とも言える総会・懇親会の開催が叶わなかったのは、大きな痛手でした。

また、本県支部として若い人たちを応援しようと平成28年の夏から毎年開催してきた教員採用試験模擬面接学習会も見送らざるを得ませんでした。しかしながら、コロナ禍であっても教員採用試験は、令和3年度採用群馬県公立学校教員募集要項のとおりに進められていましたので、本県の教職を志す都留文

科大学の学生さんが1人でもいるとすれば、本県支部としてできることは実施しようと第2次選考の面接試験に向けた学習資料を作成して届け、試験対策に役立ててもらおうことにしました。

そこで、7月21日、本県教員採用試験受験者の有無と学習資料の配布方法について大学のキャリア支援センターへ問い合わせたところ、早速、ご担当の長坂様から、受験予定者は数名いる、資料は受験者に有効に使用させていただきたい、配布は受験者宛てにキャリア支援センターからメールにて送付する旨、返信をいただきました。学習資料は、2種類作成しました。1つは、昨年までの資料を本年度の採用試験向けに編集し直したもの、もう1つは、昨年の学習会に参加し、本年度、本県の公立小学校新採用教員として活躍している原澤玲樹さん、河村夏希さんのお二人に依頼し作成いただいたものです。急な依頼にもかかわらず、快く資料作成にご協力いただいたお二人には心から感謝しています。

「コロナ禍であってもできる取り組みを」、本年度の本県支部の活動はこの一言に尽きると言えます。



コロナ禍における千葉県支部の報告

千葉県支部長 川名 和 則

令和2年度は、世界中の人々を震撼させた新型コロナウイルス感染症との戦いで始まった。未だ復旧のめどがついていない房総にあって、今年度こそは、佳い年にしたいと願っている昨今である。

令和元年9月、千葉県南部の房総半島を襲った瞬間風速50メートルの驚異的な暴風雨被災から約1年が経過したので、私なりに振り返ってみる。

1 普段の日常生活に戻れた喜びを実感！

9月の15号台風に続く10月の19号や記録的豪雨で千葉県だけでなく、東日本は大打撃を受けた。その後も復旧工事車両が進入できず、約65万軒の停電が回復できるまで数ヶ月も要した。全国的組織での支援を戴き、通信網は、ほぼ復旧できている。

※「電気や水道が、当たり前のように使えると思っていたことに」反省しきり。

※倒壊、半壊した建物を修復せず、住み慣れた家屋から離れざるを得ない家庭有り。

2 房総半島の自然体系が大きく変化！

河川の氾濫や土砂災害、竜巻による倒木被害で、野獣出現。イノシシ、タヌキ、アナグマ、ハクビシン、キョン等が人里に出没し、作物に大きな被害を及ぼしている。

※一方で、イノシシの駆除数は、増加。房州のマテバシイの立ち枯れ現象により、ドングリが減り民家周辺まで出てきているので、ハンターが射止めやすいため。

次に、新型コロナの影響を1点お伝えする。

◎ 房総半島上空から飛行機が消えた！

星座観察するため、夜空を数十分眺めていた時、羽田空港に出入りする飛行機が無いことに驚く。夜空の星と大気は綺麗でした！

※GoTo以降は、増えたが…。

昨年以降、全国の同窓会支部からの激励のお便りや同窓会本部から心温まる御支援を戴いたことに改めて感謝申し上げます。

また、千葉県支部では、今年度開催できなかった現役学生への教員採用試験対策研修会等を、次年度は、実施したいと考えておりますので、御指導の程、宜しくお願い申し上げます。



館山湾からの富士山



令和2年秋の状況

複数免許の取得を望む

富山県支部長 城 岸 毅

例年行われている4月の同窓会理事会・学生との懇話会、5月の教員採用試験模擬面接試験体験会中止の連絡を受け、今年の教員採用2次試験に向けての学習会をどのように実施したらよいのか考えあぐねていました。

取りあえず、学習会の案内書を作成し、学生課キャリア支援センター宛てに送り、学生に配付をお願いすることにしました。キャリア支援センターでは、学生向けのホームページに案内書を載せていただいたようで、3名の学生から連絡がありました。

本県出身の学生が、1次試験を何人受験したのか分かりませんが、連絡のあった3名と本年度講師をしている者1名の合計4名が、2次試験に向けての学習会に参加してくれました。

学習会は、7日間にわたり個人面接・模擬授業・小論文の指導を行いました。参加の学生は、最初は緊張からか、おぼつかない受け答えでしたが、日ごとに自信がもてるようになりました。9月には、4名全員から合格の連絡が入り、喜びを分かち合うことができました。

さて、この学習会に参加していた学生は、取得見込み免許が主免のみという者がほとんどでした。私の頃は主免（小学校1級）と副免（中学校2級の国語又は英語）の取得が可能でした。学生に「なぜ、中・高の免許も取らなかったのか。」と尋ねたところ、「負担が大きくて、（4年間で）取れない。」「受講者が多く、抽選に漏れた。」とのことでした。

本県試験の要項には、小学校受験者で英語科免許所有者には、5点の加点がなされることが明記されています。また、本県では義務教育学校へ移行する学校が増えてきており、小中両校種の免許取得者が必要とされています。さらに、小学校に外国語科が導入されてから、新採教員で英語科免許所有者の配置を望んでいるという地教委の声も聞きます。

ちなみに知り合いの富山大学卒業の教員は、小学校1種、中・高1種（英語）、特別支援学校1種の免許を取得しています。

都留文科大学出身の教員を増やすために、複数免許の取得に多大な配慮がされますよう、大学当局にお願いします。

「同窓会報」に感謝

山梨県支部長 石 井 正 己

「新型コロナウイルス感染症」の影響により、大学を会場に毎年行っている「在学生との懇話会」「教員採用試験への対策会」は、残念ですができませんでした。支部役員会も文書による決議。楽しみにしていた役員懇親会も実施できませんでした。通常の活動ができない年となっています。

ちなみに本県の教員採用ですが、小学校の倍率は5年前は4.3倍でしたが、年々、倍率が下がり、令和2年度採用は2.0倍。受験者の年齢も59歳まで可能となったようです。

さて、私事になりますが、同期の友と「都留52年会」という会を毎年開催しています。今までは、愛知県、三重県、山梨県、愛媛県、石川県で、各地の会員が幹事となり、工夫して開催。毎年、夫婦で参加される方もいて、大学時代の懐かしい話や近況報告などで楽しい和やかな時を共有しています。今年は、同窓会広島県支部で副支部長をされている目崎仁志君が幹事で広島にて開催予定でした。再会と観光、おいしい料理や酒を楽しむにしていたのですが、コロナのため、延期。残念。

そんな淋しい年ではありますが、令和2年3月15日発行の「同窓会報第38号」に関して、たいへん、うれしいことがありました。卒業して40年以上が経ちますが、私の名前が会報に載っているのを見て、サッカー部の大先輩より、突然の電話。驚き、うれしくて感激し、言葉がしばらく出ませんでした。また、同期の会員が他支部の支部長や役員として、会報に名前が載っているのを見たり、他支部の活動の様子を読んだりして、なつかしく、うれしく、そして「みなさん、がんばっておられるな」と感心させられます。

夜、仕事を終えた後、大学に集まり。会報の原稿依頼、校正などを行い、発行して下さっている役員の方、同窓会担当の方、本当にご苦労様です。ありがとうございます。

来年度は「在学生との懇話会」「教員採用試験への対策会」の実施と支部役員会、総会、全国の総会が開催されますことを願っています。

最後になりますが、都留文科大合唱団の「山梨県文化賞特別賞」の受賞、誠にありがとうございます。

あたたかな心に触れて

長野県支部長 下 島 一 道

これまで順調に開催してきた長野県支部総会。令和2年度はコロナ禍でどのような形態なら開催可能かと考えましたが、学校や企業など様々な場で活躍されている方たちに集まっていたのの会合は、「もしも」のことを考えて中止という決断に至りました。

今年は3年に1度、長野県の全同窓会員に通知を出し、同窓会総会への参加を呼びかける年でもあり、苦渋の選択でしたが、10月に中止のお知らせを全会員宛に送りました。

昨年の同窓会総会は、予定された2週間前に台風19号が日本



を襲い、同窓会会場近くの上田電鉄別所線の鉄橋の一部が崩落。「中止もやむなし」と覚悟を決めましたが、「インフラが整備されるので大丈夫です」と会場のホテルの方の言葉に後押しされ、参加者で「花のかげ」を歌うことができました。

この時参加してくださった、福田誠治学長様、柏木精一同窓会長様から、「都留文科大学同窓会としてこの災害への義援金を送りたい」旨のお言葉をいただき、前同窓会長と相談の上、ご厚意を受けさせていただきました。この義援金は赤字を通して、台風19号の被災者へ送ることができました。都留文科大学学長、同窓会長の熱い思い、あたたかなお心に触れ、感謝の思いでいっぱいです。この場をお借りして、全同窓会の方々へご報告申し上げます。



来年度の同窓会総会は、今年の思いも含め平穏な時を取り戻し、開催できますことを祈ると共に、大勢の皆様の参加をお待ちしております。

令和3年度からの長野県支部組織

支部長 市場香代子

副支部長 市村 一彦 柄澤 敏

監 事 金井 親志

事務局長 岩崎 朗

令和2年度岐阜県支部の活動について

岐阜県支部長 清 水 久 司

令和2年度は、岐阜県支部設立10年目の節目にあたり、記念すべき支部総会の開催年度でした。しかしながら、新型コロナウイルス感染防止のため、年度内の開催中止を余儀なくされました。

今年度の主な活動内容は次の通りです。

① 8/11(日) 役員会

新型コロナウイルス感染防止の為、書面表決を行いました。決議事項は以下の通りです。

- ・令和元年度事業報告並びに会計決算報告について
- ・令和2年度事業計画並びに予算について
- ・令和2年度岐阜県支部役員について

令和2年度岐阜県支部役員

会 長	清水 久司 '78 (国文)	
副会長	藤井 幸子 '69 (国文)	香田 静夫 '85 (初教)
監 事	河合 均 '84 (国文)	山岡 一信 '84 (英文)
庶 務	佐藤 眞治 '72 (初教)	古川 一男 '81 (初教)
//	(事務局長)	村井 一雄 '78 (初教)
顧 問	山本 吉朗 '65 (英文)	

議案についてはすべて承認され、決定しました。

② 9月4日(金) 令和2年度広報第1号発行

役員会の議決内容を掲載し、会員に配布しました。

③ 1月 会員への年賀状送付

例年、会員に事務局より年賀状を送付しています。会員と事務局をつなぐ、大切なツールの1つと考えています。

④ 3月 令和2年度広報第2号発行

年度末に今年度の報告や次年度の計画を掲載し発行したいと考えています。特に、今年度中止となった総会についての予定をお知らせして、多数の参加を呼びかけていきたいです。

⑤ 3月 役員会の開催

令和2年12月現在、新型コロナ第3波が世間を騒がせています。この1年、様々な行事が自粛ムードの中で滞りがちになりました。一方で、ワクチンの開発も順調に進んでおり、年明けには接種を開始する国もあるようです。事態の好転を期待し、特別な日常から元通りの日常になることを祈っております。

令和の時代をどう生きるか？

静岡県支部長 白 井 泰

今年歴史に残る大変な年になりました。新型コロナウイルスの感染拡大により各種イベントが中止・延期となり、7月の長雨は今年も九州地方を中心に日本各地に甚大な被害をもたらしました。被害に遭われた方々には心よりお見舞い申し上げます。早急の復興を願っております。そして猛暑。本当に大変な年になりました。果たして、この新型コロナウイルスはいつ収束するのでしょうか？

さて、わが静岡県支部も予定した支部総会を中止と致しました。本当に残念です。令和3年度は是非開催したいと願っております。これまででも書きましたが、静岡県の同窓生数は1500名を超えて、教職のほか、各方面で活躍されています。われわれ役員は、本支部を今後どのように活性化すべきか悩んでいます。本会報をご覧の当支部会員の皆様、是非ご意見・お考えをお聞かせください。また、昨今の大学改革の流れで本学も大きく変わりつつあります。その面からも同窓会の有り様・支援のあり方を検討したいと思います。さらに最近の卒業生からの近況も伺いたいと思います。右記連絡先にご連絡いただくと有り難いです。

最後に、今年は戦後75年の年でした。先日『センポ・スギハアラ』（劇団銅鑼）という芝居を観ました。岐阜や沼津に縁のある杉原千畝の「生命の大切さを訴える」お話です。戦後我々は戦争をどれだけ語り、聞いてきたでしょうか？ 忘れようとしてはいないでしょうか？ 令和2年は大変な年になりましたが、これからの令和時代をどのように生きていくか・生命の大切さをどう伝えていくかを、戦後75年の歩みを振り返りながらしっかり考えてみたいと思います。

〈連絡先〉西部・大場孝純—053-835-4779

中部・江川初枝—054-292-2231

東部・星屋 康—090-1289-0902

白井 泰—090-2185-8147

愛知県支部（県富岳会）この1年

愛知県支部長 百瀬 隆

今年度は新型コロナウイルス感染症のため、県内7地域で研修会や懇親会などがほとんど実施できませんでした。

その中で、教員採用選考試験を受験する学生を対象に、学習会を開催しました。今年度は、大学での同窓会理事会や模擬面接試験体験会が中止されたため、学生と直接面談できません。そこで、6月21日に、リモートアクセスで愛知県受験希望の学生と支部役員が顔合わせを行いました。また、8月15日には教員採用選考2次試験を受験する学生を対象に学習会を開き、各地域から校長が講師として参加しました。

今年度は、5年に1度実施している愛知県支部（県富岳会）総会を10月に開催する予定でした。しかし、夏の感染症拡大の状況から、やむなく来年度に延期することにしました。令和3年11月27日に開催します。感染症の状況がどのようになっているか想像できませんが、少しでも多くの参加者が集まるよう準備を進めていきます。

【令和2年度愛知県支部役員】			
支部長	百瀬 隆	(名古屋 59初教)	
事務局長	水野 修司	(名古屋 61英文)	
地域幹事	名古屋	加藤 由恵	(3初教)
	尾 張	川村 良司	(61英文)
	知多・海部	甲斐 真一	(59初教)
	西三河	平岩 康彦	(58初教)
	豊田・みよし	奥村 幸司	(60初教)
	新城・設楽	後藤 康仁	(58英文)
	東三河	田村 圭司	(63初教)

三重県支部の近況

三重県支部長 田畑 繁行

8月10日に、津市の教育文化会館において開催を予定していました支部の第15回総会・懇親会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止とし、支部規定に従い役員会にて総会議案を議決しました。

また、10月には支部設立15周年事業として、世界遺産「熊野古道」を歩く会を計画しましたが、総会同様中止としました。

コロナ禍の今、次年度の支部活動も制約を受けると思いますが、支部としては、組織の充実と会員相互の親睦と交流に向けた取り組みを進めていきたいと思っています。

令和3年の8月に総会、11月には昨年度実施できなかった「熊野古道」を歩く会を計画しています。たくさんの会員の皆様の参加を、役員一同お待ちしております。

コロナ禍が1日も早く収束し、私たちの日常が戻り、充実した支部同窓会の活動が実施できることを願っています。

令和2・3年度 三重県支部役員（卒年）			
会 長	田畑 繁行	(S 54初)	
副 会 長	田中 幹也	(S 52初)	八重篤敏一 (S 55初)
監 事	中瀬 善美	(S 47国)	宮崎 弘子 (S 56初)
事務局長	六田 嘉郎	(S 57初)	
会 計	松岡みつ子	(S 56初)	
庶 務	一木 尚子	(S 52初)	篠原 政也 (S 57初)
顧 問	福田 和幸	(S 46国)	



熊野古道

滋賀県支部 結成7年目
第7回支部総会と懇親会を中止

滋賀県支部長 松嶋 孝雄

滋賀県支部が結成され7年間の経過しました。年1回の総会も昨年までで、6回を数えました。今年度は、8月16日にホテルポストプラザ草津において、事務局長様のご尽力により、7回目の総会の実施を予定していました。

総会の準備を進めるにあたり、次のようなことが頭に浮かびました。

「このコロナ禍に敢えて同窓会総会及び懇親会を実施することにより、我が支部事務局による会場予約を含む準備や資料の準備を通して、人としてまた教師としての資質の向上に繋がります。総会後半の研修の準備等のご苦労は、無駄にならず生かされるだろう。」「昨年迄の総会には、新たに20歳代の先生方を加え、少数ではあるものの現職の先生方にも出席いただいた。」「昨年のは、『若い現職の先生方にも参加をしていただき、今後の支部の充実や少し大言壮語の感否めませんが、滋賀教育の発展に寄与するものになり得るのではと老人の儂い嬉喜びとは言えども、微かな光明が見えた思いがいたしました。』と記した。」「大学同窓会の理事会も中止になった。」

葛藤の末、私の中では今年度は中止の方が、ベストの選択

に違いないという結論に行き着きました。

支部役員の方々にお諮りし、7回目の同窓会総会及び懇親会を中止することになりました。事務局長の齊城勝美先生には、そのことにより、多種にわたる文書を作成してご対応頂きました。大変お世話になりました。書面をお借りし、改めてお礼申し上げます。

来年度は、きっとコロナを克服し、オリンピックの事も話題にしながら、和気藹々の総会・懇親会が開催されることを思い描き、祈る気持ちの毎日です。

令和2年度の改選 滋賀県支部役員			
支部長	松嶋 孝雄	(昭和46年度教卒業)	
副支部長	大澤 裕	(昭和56年度国卒業)	
会計監査	塩屋 勝志	(昭和57年度教卒業)	
	鳥飼 雅一	(昭和63年度教卒業)	
事務局長	齊城 勝美	(昭和59年度教卒業)	
事務局	大橋 雅子	(昭和57年度教卒業)	
	中村 雅昭	(昭和58年度教卒業)	
	村田 良文	(昭和58年度教卒業)	

コロナ禍における教員採用試験

兵庫県支部長 高谷 和久

兵庫県下において、新型コロナウイルス感染者が出たのは、3月1日に1人。その後は、徐々に増加傾向が続き、4月11日には42人となり、令和2年度の都留文科大学同窓会兵庫県支部総会は、実施の方向で計画しておりましたが、やむなく中止することとなりました。

一時、5月に新型コロナウイルスの感染が落ちつきを見せたので、役員会だけでもと計画しましたが、社会の動静が3密を避けることと、高齢者の重症化が大きく取り上げられる中、10人前後の高齢者が集まって話し合うことも難しい状況になって、役員会も延期することとなりました。

しかし、こうしてコロナ禍が長引くにつれ、同窓生が1人又1人と少なくなっていくことに、寂しさが一層つり、会が持てないことに対して、断腸の思いで一杯になります。

この様な中であっても、本年度も、教員採用試験の模擬授業、面接の指導を、8月に姫路市の教育研究所において実施することができました。受験生のやる気と、計画してくれた担当者の熱意のお陰と感謝の気持ちで一杯です。

受験生は、男性1人、女性1人の2名でしたが、2人共、裏付けで5年目と7年目と苦勞をしており、それだけに、今年の採用にかける思いは人一倍です。

コロナ禍の中でも必死で採用試験に取り組んでいる2人に、先輩として出来る限りの指導をいたしました。

男性は2次試験に合格したと連絡がありましたが、女性の方は、残念ながら不採用の様でした。しかし、あきらめずにチャレンジをしてほしいと願っています。

少子化の中、そして、コロナ禍の今、教員採用試験に臨む受験生には、体調管理を万全にして、チャレンジをして欲しいものです。

私達、先輩も微力ではありますが、1人でも多くの受験生が合格して、兵庫県の教員となり明日を担う子どもの育成に尽力して欲しいと願うばかりです。

いじめ、不登校、学力差等々課題の多い教育界ですが、夢を持って兵庫県の教員となり、大きな足跡を残していってほしいと強く願っているこの頃です。

支部創設5年目 第3回総会・懇親会開催

和歌山県支部長 谷口 博保

新型コロナ感染ニュースがポツポツと出始めた令和2年2月22日、開催を危惧しながらも17名の参加を得て第3回総会を行うことができました。

今から思えば綱渡りのような総会でした。

2月の総会実施以降は新型コロナ感染拡大の影響を受け、役員会等は予定どおりにはなかなか開くことができず、ようやく10月と12月に三役が顔を合わせたところですが、早く落ち着くことを願うばかりです。

私は昭和52年3月に卒業して、40年ほど経ってから嶋田ゼミと氷上部で当時の仲間と再会することができました。どちらも毎年というわけにはいかないのですが会う機会を設けています。

都留文科大学という共通項を軸に県支部だけでなく嶋田ゼミ・氷上部のつながりが今なお続いていることをうれしく思っています。

支部活動だけでなくそれぞれの下宿・ゼミ・部・サークル等の卒業後の集まりや活動を紹介することができると思います。

【令和2年度・3年度役員】

役職	氏名 (卒年度学科)
顧問	前田 忠 (S45初)
会長	谷口 博保 (S51初)
副会長	廣田 千鶴 (S50初) 阪中 美文 (S53初)
	和田 靖子 (S52初) 中村 善弘 (S54国)
事務局長	山田 欽哉 (S52初)
監事	小左古 治 (S45英) 山入 邦雄 (S46英)
	木浦 憲一 (S46初) 根田 渡 (S47英)
庶務	平野 幹夫 (S46初) 木原まり子 (S50国)
	原 泰孝 (S52初) 真砂 良子 (S54初)
	廣田 敬則 (S55初) 鳥越 博 (S57初)
	永石 和 (S57初)



都留文科大学同窓会和歌山県支部 第3回総会 2020/2/22

佳き年 求め 人道 築く

広島県支部長 小谷 桂司

今年は、コロナ騒ぎに振り回された1年でした。

支部活動は、役員会は何とか実施出来たものの総会の日時や場所は、コロナが落ち着き次第、連絡しますと会報での情報提供だけは出したものの何の進展もなく今に至っています。実に残念です。

例年、大学で行われる4月の同窓会理事会後の懇談会・交流会、5月の模擬面接試験体験会の日に行われる同郷の在校生との懇談・情報交換会で、お会いする人がいます。今年度は両日とも中止。

毎年、3月末、新聞報道に掲載される広島県(市)の人事異動の中の「新規採用者」の欄にて、そのような人の名前を見つけ出した時は、「都留文大・都留市で学んだこと」を活かしてくれる人が「広島に帰って来てくれる」と喜ぶ自分がいます。

今年は、2名発見し、連絡でき、話はできましたが、3密を避けるため会合ができず、何時かはと願望です。

在校生には、大学で行われる4月・5月の会合に多数の参加を望みたい。そして、広島に帰って来て、「新たな風を」「都留の風を」と願っています。

来年度の総会参加者を増やすためにも、まだまだ工夫をと考えています。佳き未来に託すためにも。

辛丑 出会う邂逅 丑年に

佳き年求め 人道築く

桂 歴代

令和2年度役員

顧問 会長 副会長 事務局長 理事 監査 監事	問長	金久 小谷 目崎 二宮 田丸 猪原 三永 福岡 白石 山中 安藤	睦彦 桂司 仁志 正美 憲三 政幸 武志 隆護 正弘	中西 吉貞	正一 至誠				
				山城 本宮 池田 三京 五葉木 田辺 奥窪	義明 達弘 桂子 弘明 輝正 恵子 尚昭	玉山 土橋 島本	洋信 智子		
							兼丸 末房	裕子 朋子	

新型コロナウイルスの徳島県での状況

徳島県支部長 小倉 健司

徳島県支部は、平成5年に結成され、令和2年度で27年目を迎えています。これからも大学の発展に寄与できますよう、また、支部が充実していきますよう活動を活性化させていきたいと思っています。

徳島県支部は、毎年8月に実施していました都留文科大学同窓会徳島県支部総会ならびに懇親会を、新型コロナウイルスの影響により、今年度は中止としましたが、現状を見ると「正解」だったと思います。

そこで、今回は同窓会会報の趣旨にそぐわないと思いますが、「新型コロナウイルス渦中の徳島県の小学生たちの様子」についてお伝えしたいと思います。

私は、平成30年度末で教育現場を離れたので、教育現場で実際に活躍されている都留文科大学出身の現役教員に教えていただいたことをお伝えします。

どの都道府県、どの学校でも同じようなことをしているとありますが、小学校では、マスクの常時着用と「健康チェック

表」の活用をしています。各自、自宅で検温し、その日の体調をチェックし、登校時、担任に提出して健康状態を確認しています。学校の玄関には、児童・教職員が使うアルコール消毒液を設置して、来校者も同様に消毒しています。

給食時は、消毒用エタノールで配膳台や各自の机を拭きます。食事中は、一人一人が前を向いて、話さずに食べています。体育の授業時は、マスクをはずしてもよいが、密にならないように集合・整列をしています。朝会や集会活動は行っていません。始業式や終業式は、リモートで実施しています。

地域での子どもたちの様子は、新型コロナウイルスに関係なく、放課後子ども教室や学童保育に行っている子が多いので、放課後もあまり見かけないです。地域での様々な文化的活動や社会体育も制限をしながら実施しています。

コロナ禍の様々な制限の中でも、子どもたちにとっては、仲間と集い、会話し、共に学ぶことに勝るものはないと思います。未来を担う子どもたちが健やかに成長できますように、温かく見守っていききたいと思っています。

令和2年度の長崎県の現状

長崎県支部長 平山 繁壽

令和2年度は、長崎県でも、新型コロナの影響で1学期が約10日間夏休みに食い込み、毎年7月下旬に予定していた「令和2年度同窓会総会」を中止し、総会資料の送付のみにしました。

新規採用教員の採用状況に関しては、この5年間くらい、毎年小学校で200人強・中学校で80～90人程度・高校で50人程度・特別支援学校で45人程度の採用があります。

採用試験の内容も、本年度は「教壇における課題面接（模擬授業面接）」が廃止され、面接直前に教科に関する課題を提示し、個人面接内で質問する方法に変更されました。

都留文大の卒業生も、この数年間毎年1～2名が採用されているのが現状です。しかし、教員以外の県内就職者が確認できていないのが残念です。

長崎県には、大きな島が3つあります。

県の人事異動方針で、在職期間中のどこかで、離島地区に3年間又は主たる勤務地から遠距離の地区に転居して6年間勤務しなければなりません。

大きな島は、北に対馬・壱岐。西に五島列島（新上五島町・

五島市・小値賀島・宇久島）があります。

壱岐（郷ノ浦港・芦辺港）や対馬（厳原港）には、福岡県の博多港からフェリーやジェットfoilで行きます。壱岐（印通寺港）には、佐賀県の唐津市からフェリーで行くこともできます。

上五島（奈良尾港・有川港・鯛ノ浦港・小値賀港・宇久平港）には、長崎港や佐世保港からフェリーやジェットfoil又は高速船で行きます。

五島市（福江港・奈留港）には、長崎港からフェリーやジェットfoilで行きます。

対馬・壱岐・五島（福江）には、長崎空港から飛行機でも行けます。

私は、以前にも書きましたが、新上五島町と壱岐市に勤務したことがあり、どちらも第2のふるさとになっています。

長崎県支部の今後の活動計画は、来年度の総会を令和3年7月31日（土）に島原市で開催する予定で計画を進めています。

令和4年度は、新上五島町で開催できればと考えています。他の島でも希望があれば開催します。



逆境を乗り越えて

熊本県支部長 永田 好文

7月4日未明。県内初の「大雨特別警報」発令と時を同じくして、日本三大急流の1つ・球磨川流域で洪水が発生しました。すさまじい濁流が、家々を、集落を、道路を、鉄道や橋を、あつという間にのみ込み、押し流していきました。非常の雨は、県北や天草など県内各地を襲い、人々の日常生活を奪っていきました。未曾有の洪水に見舞われた被災地は、住民やボランティアによる懸命の復旧作業により回復に向かってはいるものの、専門家によると元の状態に戻るには現状では計り知れない年月を要することです。被災地には本大学卒業生や現役学生も多いことから、災害発生後間もなく避難場所を訪問しました。また、災害現場に赴き、微力ながらスコップを持参して復興支援の手伝いをさせていただきましたが、現場は手付かずの状態で、専門家のコメントが裏付けられたような印象を受けました。

熊本地震の時もそうでしたが、今回も同窓会本部の柏木会長には心温まる言葉かけや支援の手を差し伸べていただき、心から感謝している次第であります。

さて、本年度は2年に1度の支部総会開催年に当たることから、熊本地震からの復興に区切りを付けようと、震源地近くの小学校に勤務されていた校長（現教育長）に依頼し、「熊本地

震は突然に！その時学校は…熊本地震からの復興」と題しての記念講演会を開催することにしていました。しかし、思いもしなかった新型コロナウイルス感染の影響で、本年度開催は中止を余儀なくされました。できれば、次年度に順延して支部総会を開催したいところですが、新型コロナウイルス感染の収束が見えない中、流行状況を見守っているところです。

このように、熊本県は地震からの復興途上にある中に、新型コロナウイルスが発生し、第一波が終わろうとしていた7月に豪雨災害と、トリプルパンチに見舞われている状況にあります。本支部役員としましては、今こそ「逆境を乗り越えて」を合言葉に、都留を巣立った会員の皆様、これまで以上に支部総会の開催を心待ちにしていただけのような会の在り方を求めて検討中ですので、熊本県支部会員の皆様は、次回の開催を楽しみにしておいてください。多くの参加をお待ち申し上げます。



令和2年度鹿児島県桂川会役員会を終えて

鹿児島県支部長 本田 武久

第21回鹿児島県支部総会を令和2年10月31日（土）に予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、今年は中止の方向で取り組もうと役員間の電話連絡で決定をしました。しかしながらせめて役員会だけでも開催し、支部活動を推進したらどうかとの声があり、支部役員会を開催しました。

11月14日（土）鹿児島市のホテルで支部長、副支部長、事務局、監事の4人で密を避けて開催することとしました。会では役員の近況報告、同窓生関係の情報交換、令和2年度支部役員選出、令和3年度支部総会・研修会の日時、場所、研修会の講師予定等を話し合いました。情報交換では、鹿児島最南端の与論町が新型コロナウイルスで大変困った状況であり、町長（都留文科大卒業生）や教育長（都留文科大卒業生）が行政のトップとして頑張っているが、何とか手助けできないだろうかとの声も出ました。

与論町は観光の島でもあるので、コロナ縮小後は全国の同窓生が応援に来島してくれたら有り難いのだが、と思うところです。ここ数年は総会も40名前後が参加するようになり、年々活気を感じていただけない、新型コロナウイルスによる今年度の中止の判断は、残念でなりませんでしたが、来年の盛会を祈念して役員会を終了しました。



支部長	本田 武久（昭和43年度卒）
副支部長	植村 和信（昭和45年度卒）
副支部長	大山 典男（昭和45年度卒）
事務局	水流 広之（昭和55年度卒）
事務局	中村 智子（平成元年度卒）
監事	室屋 綾（平成2年度卒）
監事	平澤 泰明（昭和41年度卒）



体育会紹介

令和2年度 体育会 会長 河合 竜 誠

早春の候、都留文科大学の同窓会の諸先輩方におかれましてはますますのご健勝のこととお慶び申し上げます。

令和2年度体育会本部は「開花」という基本方針の下、活動いたしました。近年鶴鷹祭で勝利できていない中、今年こそは勝利という花を咲かせたいという思いでしたが、新型コロナウイルスの影響により、鶴鷹祭や各部の春季リーグ戦等が中止になるという非常に残念な結果になりました。しかし、秋頃から徐々に各部の大会が開催されるようになり、現段階では来年度の鶴鷹祭は都留の地で開催する予定であります。来年度は鶴鷹祭が無事に開催され、久しぶりの勝利をあげられることを祈願いたします。

新型コロナウイルスの影響で新たな生活スタイルを求め

られる中で、我々が無事に活動できていることは、先輩方の多くのご支援、ご協力があったこそだと考えております。誠にありがとうございます。今後とも、都留文科大学体育会をよろしくお願いいたします。



令和2年度 準硬式野球部 主将 熊本 新

今年度我々準硬式野球部は、リーグ優勝、そして全国大会出場を掲げて練習に励んでまいりました。しかし、新型コロナウイルスの影響で春季リーグ戦は中止となり、これまでに経験したことのない状況となりました。部員のモチベーションを保つことも難しく、試行錯誤した1年でしたが、9月に行われた秋季リーグ戦で準優勝を収め、関東大会出場を果たすことができました。野球ができることが当たり前前ではないと実感した1年であり、目標であった全国大会出場も達成することができなかったため、後輩たちに託したいと思います。そして、このように準硬式野球部が活動出来ているのは体育会、OBの方々をはじめとする多

くの方々のご協力やご声援のおかげです。そのような方々への感謝の気持ちを忘れずにこれからも精進してまいりますので、今後とも準硬式野球部をよろしくお願いいたします。



令和2年度 女子ソフトテニス部 主将 今野 愛 美

私たち女子ソフトテニス部は、これまでの結果に満足することなく常に挑戦する姿勢を大切に日々の練習に励んで参りました。感染症対策を万全に行いながらの活動は満足のいくものではありませんでしたが、部員全員で協力し合いながら限られた時間の中で多くの練習を行うことが出来たと思います。

感染症の影響により様々な大会が中止となる中で、今年度最後の関東学生リーグ戦を開催することが出来ました。様々な制限と入れ替え戦を行わない事が決まった中での開催となり、普段とはまた違う緊張感の中での対戦となりました。目標としていた昇格は入れ替え戦がなかったため達成することは出来ませんでした。男女部ともにリーグ優勝という最高の形で来年に繋げることができたと思います。

また、今年度はたくさんのOB・OGの先輩方からいつ

ても以上にご支援ご声援をいただき、男女部ともに最高の結果を残すことが出来ました。本当にありがとうございました。

今後とも体育会女子ソフトテニス部をよろしくお願いいたします。



令和2年度 氷上部 主将 中谷 琉 風

今年度氷上部は「全員C級獲得、自己ベスト更新」という目標を掲げて日々練習に励んでいます。私たちが氷の上で滑ることができる期間である12月～2月末までの3か月という非常に短い期間の中で、上記の目標を達成するべく、前期は体育館での筋力トレーニングや、屋外でのローラースケートの練習に部員一同取り組んで参りました。今年度は新型コロナウイルスの影響により、活動をするうえで様々な制約があったものの、部活動自体を行えていることは、体育会本部並びに後援会、同窓会員の皆様のおかげです。このような環境下で部活動が行えていることに感謝

し、3か月間の短い氷上での練習が有意義なものになるよう部員一同、より一層精進して参ります。今後とも氷上部をよろしくお願いいたします。



文化会紹介

令和2年度 文化会 会長 森 宏太

同窓会の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

今年度の文化会には30近い団体が所属しております。今年度は新型コロナウイルスの蔓延により、どの団体も満足に活動することができませんでした。ですが、どの団体もこのような苦境を乗り越えるべく、感染防止に協力してくださり、そのうえで団体のできる精一杯の活動をしていま

す。そんな団体の努力に応えるべく文化会本部に所属する学生も最大限の努力と活動を行っております。

これから先、前年度のように活動をしていくことができるかどうか未だ明確にはなっていません。しかし、所属している団体、団体に所属する学生と共に文化会本部一同、精力的に活動に努めていきたいと考えております。

日頃の文化会の活動へのご理解とご協力に心より感謝申し上げます。今後ともご指導とご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

都留 JAZZ 倶楽部 代表 福田 詩音

都留 JAZZ 倶楽部では毎週月、水曜日、音楽好きが集いセッションをしています。その他の日にも多くの部員が日頃より個人練習に励んでおり、クラブハウス棟に様々な楽器の音色を響かせています。また、桂川祭では皆いろいろなバンドを結成し、多様なジャズを演奏、披露しています。

これは、同窓会の皆様を初めとする多くの方々の支援の賜物です。加えて、文化会の方々、PLUS ONE +など、多くのサークルの方のお力添えもあってのことです。この場を借りて感謝申し上げます。

今年はコロナウイルスの影響もあり、日々のセッション、桂川祭と今までのような活動ができない日々が続いていますが、少しずつ日常を取り戻しつつあります。

来年は今年の悔しさをバネにして、より良い演奏をできるよう日々努力していく所存です。皆様におかれましては、ご自愛なさると共に、変わらぬご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



軽音楽部 前部長 岡本 雄

軽音楽部には、「バンドをやりたい」という積極的な意志をもった部員が集まっています。コンサートの企画や運営、照明や音響なども自分たちで行っていて、1回1回のライブでベストを尽くすために、日々努力しています。しかし2020年度は、新型コロナウイルスの影響で活動の縮小を余儀なくされ、ライブも練習も困難な状態になりました。感染対策や部員の体調管理を徹底しながら徐々に活動を拡大し、半年かけてようやく、部室でのバンド練習ができるまでになりました。半年ぶりに爆音で演奏したとき

は、言葉で言い表せないほどの感動を味わいました。活動が困難な状況はこれからも続くとは思いますが、バンドに対する情熱をもった部員がいる限り、試行錯誤を続けていきます。



シネマファクトリー 代表 杉浦 はるか

シネマファクトリーでは、自主製作映画の作成と上映を行っています。作品ごとに班を結成して作成し、月に1度の上映会で作品を発表しています。

また、大学生活における一大イベントである桂川祭では一般公開に合わせて上映会を行い、地域の方にもご覧いただいております。2018年度、2019年度には、桂川祭出店王決定戦パフォーマンス部門において2年連続で1位を取ら

せていただき、皆様に楽しんでいただいていることを実感するとともに、今後の活動の励みにもなっています。

桂川祭で上映する作品は、毎年夏休みに撮影合宿を行い、通常の作品よりも時間をかけて作成しています。また、この撮影合宿の運営には、後援会より運営にかかわる資金の援助を頂いて開催しております。皆様のご支援、本当にありがとうございます。

今年度は情勢のこともあり、十分な活動ができませんでしたが、来年度からは、今年の悔しさもバネにしてより素晴らしい作品づくりができるよう、努力してまいります。



第26回都留文科大学同窓会総会のお知らせ

○日時 2021年7月31日(土) 午後2時 ○場所 都留文科大学2号館 101教室

同窓会会員の皆様におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の全国的な感染拡大により、同窓会の事業の実施も大きな影響を受けています。4月の理事会を紙面審議とさせていただき、5月の「在学生との懇話会」「模擬面接体験会」も中止とさせていただきました。その他の事業につきましても思うように実施できていない状況です。各支部での事業におきましても、本部同様であるものと拝察いたします。

さて、令和3年度は、同窓会総会の開催が予定されています。このような状況ではありますが、現状では「第26回都留文科大学同窓会総会」を上記の通り開催する予定です。会員の皆様の参加を心よりお願い申し上げます。新型コロナウイルス感染症が収束し、盛大な総会が開催できますことを執行部も大学当局も切に願っています。

なお、来年度の新型コロナウイルス感染症の感染状況により、総会の実施の有無・実施方法等を変更する場合があります。その際は、改めて各支部長への通知及び大学ホームページにてお知らせいたします。

.....

平成31年度（令和元年度）都留文科大学同窓会会計収支決算書

◆収入の部 (単位：円)

項 目	当初予算額	補正予算額	予算現額	収入済額	備 考
入 会 金	4,405,000	0	4,405,000	4,405,000	881人×5,000円=4,405,000円
終 身 会 費	8,810,000	0	8,810,000	8,810,000	881人×10,000円=8,810,000円
繰 越 金	2,322,475	0	2,322,475	2,322,475	平成30年度繰越金
雑 入	60,000	0	60,000	34,474	理事会・総会懇親会御祝儀、預金利息
収 入 合 計	15,597,475	0	15,597,475	15,571,949	

◆支出の部 (単位：円)

項 目	当初予算額	補正予算額	予算現額	支出済額	備 考
事 業 費	8,620,000	350,000	8,970,000	8,422,576	
会 報 発 行 費	3,200,000	0	3,200,000	3,035,076	同窓会報第38号（平成31年度発行）
支 部 助 成 金	3,700,000	0	3,700,000	3,610,000	東京 神奈川 山梨 長野 静岡 愛知 720,000円（@120,000円×6支部） 北海道 富山 石川 兵庫 岩手 550,000円（@110,000円×5支部） 宮城 埼玉 千葉 福井 岐阜 大阪 広島 徳島 岡山 900,000円（@100,000円×9支部） 山形 群馬 三重 京都 島根 愛媛 長崎 鹿児島 沖縄 青森 900,000円（@90,000円×10支部） 滋賀 和歌山 鳥取 熊本 宮崎 400,000円（@80,000円×5支部） 奈良 高知 140,000円（@70,000円×2支部）
支部設立準備金	300,000	0	300,000	150,000	栃木県支部
新 入 学 祝 費	600,000	50,000	650,000	643,500	令和2年度入学祝 新入生記念品
支 部 旗 作 成 費	120,000	0	120,000	54,000	栃木県支部設立
教 員 採 用 試 験 学 習 会 費	450,000	0	450,000	380,000	宮城 石川 東京 千葉 山梨 富山 愛知 群馬 兵庫
被災地支援活動費	250,000	300,000	550,000	550,000	被災地支援金（宮城 熊本 千葉 長野）
会 議 費	2,800,000	0	2,800,000	2,149,819	
総 会 費	800,000	0	800,000	273,419	
理 事 会 費 等	2,000,000	0	2,000,000	1,876,400	
同 窓 会 本 部 費	2,560,000	0	2,560,000	1,891,964	
事 務 費	250,000	0	250,000	146,805	
運 営 費	1,850,000	0	1,850,000	1,427,415	貸金負担金700,000円含む
慶 弔 費	340,000	0	340,000	197,744	入学式祝い生花代ほか
本部役員活動費	120,000	0	120,000	120,000	平成31年度役員報酬
積 立 金	1,000,000	0	1,000,000	0	大学創立記念事業基金
予 備 費	617,475	△350,000	267,475	0	
支 出 合 計	15,597,475	0	15,597,475	12,464,359	

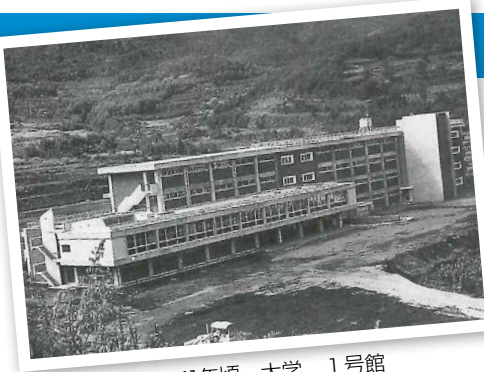
(収入済額) (支出額) (収入・支出差引残高額)
15,571,949 - 12,464,359 = 3,107,590

◎平成31年度 基金積立及び取崩状況

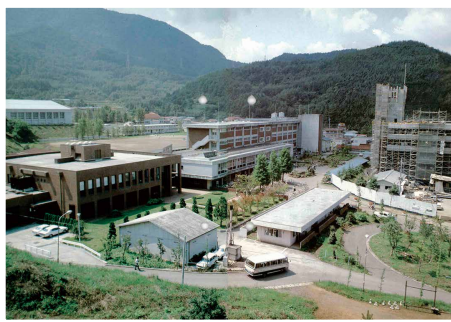
◆財政調整基金積立金額	0円	平成31年度末 基金の内訳
◆大学創立記念事業基金積立金額	0円	
積立金合計額	0円	
◆財政調整基金取崩金額	0円	
◆大学創立記念事業基金取崩金額	0円	
取崩金合計額	0円	

財政調整基金	5,647,357円
大学創立記念事業基金	28,523,927円
計	34,171,284円

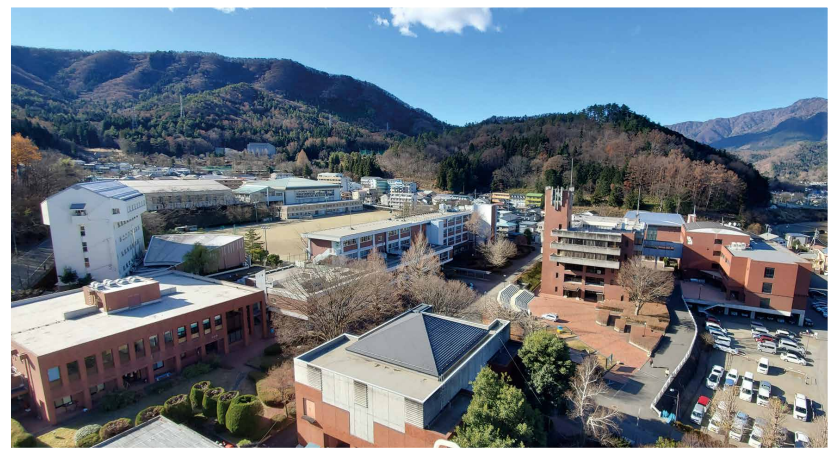
都留文科大学 今と昔



昭和41年頃 大学 1号館



昭和56年 大学校舎（本部棟建設中）



現在 大学校舎全体



昭和42年頃 大学入口付近

「都留文科大学地域交流研究センター・ミュージアム都留」所蔵



現在 大学入口付近

氏名・所等変更はホームページ・E-mail・郵便はがき・FAXをお願いします

結婚・転居等により住所や氏名等を変更された方は、次の必須事項及び変更内容を、いずれかの方法によりお知らせください。郵便はがきでの氏名・住所等変更届の場合は、はがきは自己負担をお願いします。

1 ホームページ

(1) ホームページより [卒業生の方へ] → [同窓会] → [同窓会氏名・住所等変更届] にて行ってください。なお、詳しい変更方法については、ホームページ上に掲載してありますので、ご参照ください。

都留文科大学ホームページ

URL: <https://www.tsuru.ac.jp>



(2) ホームページ上にて氏名・住所等変更届けを行う際には、次のパスワードが必要となります。

パスワード: **tbdh2206**

(半角英数) ※同窓会会員以外による不正使用がないよう、パスワードの管理にはくれぐれもご注意ください。

2 E-mail にて送信

E-mail: dousokai@tsuru.ac.jp

3 FAX・郵送

〒402-8555 山梨県都留市田原 3-8-1

都留文科大学同窓会 宛

TEL 0554-43-4341 内線206

FAX 0554-43-4347

◎必須項目	○変更内容
氏名（フリガナ）／旧姓	現住所／電話番号
卒業年・学科	勤務先名
生年月日	勤務先住所／電話番号
	勤務先の役職

※住所移転等で同窓会報がお手元に届かない場合があります。らご連絡ください。

☆同窓会ブログも平成24年11月から発足しておりますのでご覧ください。

掲載は本学ホームページより [卒業生の方へ] → [同窓会] → [同窓会ブログ] をご参照ください。